

令和3年度

森林・林業の技術交流発表大会

令和3年11月25日（木）～26日（金）



九州林政連絡協議会挨拶



九州森林管理局長の 小島 でございます。
令和3年度 森林・技術交流発表大会の開催にあたり、九州林政連絡協議会
会長として一言ご挨拶申し上げます。

まずはじめに、本年7月の梅雨末期の大雨と8月上旬の大雨により被災された皆様に対して心からお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになった方々に対して心からのご冥福をお祈りいたします。

さて、この森林・林業の技術交流発表大会は昭和36年から熊本営林局の職員による業務発表大会を始まりとし、平成6年度から国有林のみならず、九州の林業の発展に向けて幅広く技術情報の交換、共有をすべく発表者を各県の職員などに広げるとともに、平成7年度からは主催を九州林政連絡協議会とし名称も森林の流域管理システム推進発表大会に変更し、平成27年からは現在の森林・林業の技術交流発表大会として、森林・林業の時代の変化に応じて開催形式など柔軟に変更しながら現在まで継続しているところです。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からWEB形式での開催とし特別講演なども実施出来ない状況でありましたが、今年は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言、まん延防止等措置も解除となり、感染予防対策を講じつつ、従来どおり九州・沖縄の産・官・学の森林林業の関係者が一同に会する形式で開催することができ、大変うれしく思っているところでございます。

今年は、高校生5課題を含む26課題の発表が行われます。

発表される皆様は、コロナ禍で自由な活動が行われない中で課題を見つけテレワークや出張制限がある中、研究活動内容を整理し、発表をすることは大変苦労があったと思います。こうした日頃からのご努力に対しまして、心から敬意を表する次第です。

また、塔村森林総研九州支所長様をはじめ、審査委員の皆様におかれましては、お忙しい中審査委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。二日間にわたる長丁場の審査となりますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大により社会・経済に大きな影響が出ています。我々の森林、林業、木材分野におきましても、今年に入ってからウッドショックと言われるような状況が起こり大変大きな影響が出ています。まだまだ先行きが不透明なところはありますが、社会全体の動きを見れば、SDGsへの関心の高まりや2050年の脱炭素社会の実現に向けた動きが本格化する中、地球温暖化防止への貢献度が高い森林や木材利用に

ついでに国民や社会の関心は、今後、益々高まっていくと考えられます。

一方、森林・林業の現場では山村の過疎化や林業従事者の高齢化、主伐後の確実な再生林の確保、シカ被害対策など依然として難しい課題が山積しています。

このような中、今年の6月には、新たな森林・林業基本計画が閣議決定され、2050年カーボンニュートラルを見据えた社会の実現を目指し、森林・林業・木材産業のグリーン成長を目指すことや、新たな山村の価値を想像する森林サービス産業の育成などが政策の方向性として打ち出されました。

また、公共建築物等木材利用促進法も議員立法により「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に改正され、公共建築物のみならず民間の建築物においても木造化・木質化を推進することとされ、今後、国民運動が展開されることとなっています。

このように、森林・林業・木材産業あるいは木材利用を取り巻く状況は大きな変化の時期にきています。

近年は大雨や台風等により山地災害が毎年のように発生しており、大面積の皆伐や路網の開設がこうした災害を誘発するのではないかと国民の皆さんの懸念も高まっています。

こうした森林・林業の分野における課題を一つ一つ解決していくためには、研究者などによる最新の科学的知見を集積した新たな技術開発なども大変重要ですが、現場第一線で活躍する技術者や次世代の森林・林業を担っていく学生・生徒の皆さんが日常の業務や勉強の中で見つけた課題を整理し発表することは大変意義あることだと考えています。また現場で働く技術者や高校生の皆さんにとっても自己研鑽の発表の場としての本大会の重要性というのは益々増していくと考えています。

今後とも、本大会の発表は活発に行われますように関係者各位、特に各森林管理署長、各センター所長には協力をお願いします。

九州森林管理局では、九州・沖縄の5大学と連携協定を締結させて頂いております。明日は、熊本県立大学、宮崎大学、九州大学から日頃の研究成果を特別発表としてお話をしていただくこととなっております。大学の皆様とも、広く連携して、研究と実践の場を繋ぐことは重要なことと思っています。

それぞれの分野における、最先端の研究成果を知ることが出来る良い機会ですので、是非とも皆様にはご拝聴頂きますようお願い申し上げます。

最後になりますが、発表者の皆さんが日頃の成果をしっかりと伝えられることと、本大会を契機として森林・林業関係者の交流がますます盛んになり、九州の森林・林業、木材産業の発展に繋がることを心から願うとともに、本日ご参加の皆様の今後ますますのご活躍、ご発展を祈念しまして開会にあたり私の挨拶とさせていただきます。

令和3年11月25日
九州林政連絡協議会会長 小島孝文

目次

目 次

I 一般発表

森林技術部門(パレアホール)			頁
1 上益城地域版「よりそうプログラム」の取組み	熊本県県央広域本部 上益城地域振興局	浦本 優子	1
2 宮崎県西臼杵地域の伐採届出制度	宮崎県 西臼杵支庁	井上 聡史 鳥越 まゆ	4
3 現場業務の効率化	宮崎森林管理署 都城支署	坂本 徹也 石綿 深志	6
4 樹木見本園（多樹種植栽地）の現況について ー大分県におけるコウヨウゼンの事例ー	大分森林管理署	大城 千英 宮島 利華	9
5 北薩地域における再造林推進に向けた取組について	鹿児島県 北薩地域振興局	山之内 美穂 長谷川 徳幸	11
6 壊れにくい作業道に向けて ー山ずりを活用した道づくりー	森林整備センター 九州整備局水源林業務課	森 優真 伊藤 剛昌 小倉 江利子	14
7 センダンの成長観察結果（音羽山国有林のセンダン）	森林技術・支援センター 宮崎北部森林管理署	山形 良平 大寺 義宏 引地 修一	17
8 新たな森林管理システムにおける市町村の森林整備活動の支援	長崎県 県北振興局	前田 真二	20
9 林業事業体の業務 I C T 化に向けた取組 ー業務効率化から広がる林業成長産業化ー	福岡県 福岡農林事務所	酒谷 賢毅	23
10 地域における早生樹の可能性検証プロジェクト	西都児湯森林管理署	石原 春菜 永井 純一	26
11 航空レーザによる樹木解析について	宮崎南部森林管理署 朝日航洋株式会社	濱本 桜 世古口 竜一	29
12 機械下刈りを前提とした新たな植栽配置の検討	大分県林務管理課 大分県 西部振興局 久大林産株式会社	小関 崇 宮崎 恵輔 工藤 洋一	32
森林保全部門（会議室 1）			
1 福岡森林管理署における U A V の活用事例	福岡森林管理署	丸岡 仁人 崎田 朱里 石川 大智	35
2 シカの忌避植物を利用した造林木への影響	北薩森林管理署	田島 尚 塩崎 暢彦 溝口 英聖	38

3	I C Tを利用したシカ捕獲について（経過報告）	大分西部森林管理署	日田 仁志 川原 博 井上 欣勇 浅田 実穂 伊藤 明雄	41
4	屋久島における外来植物アブラギリの効率的な駆除方法について	屋久島森林管理署 屋久島森林生態系保全センター	志村 康介 諫山 雄一郎	44
5	火山ガス被害跡地のヒノキ天然更新について	長崎森林管理署	長尾 楓花 渡邊 昭伍	47

森林ふれあい部門（会議室1）

1	森林教室を体験した中学生へのアンケート調査	熊本県 旭志林業研究グループ	石原 敬 宮崎 修	50
2	高校生を対象とした担い手対策の取組	佐賀県 伊万里農林事務所	淵上 武俊 中村 克也	53
3	西表島における自然環境教育の推進に向けた取り組みについて	西表森林生態系保全センター	後藤 直哉 春田 魁登	56
4	ハートマーク♥桜の記念植樹による地域貢献 ～新型コロナ禍での取組～	熊本森林管理署	濱田 祥吾 大瀬 敦也 塩澤 翔	59

II 高等学校発表（会議室1）

1	ダム建設残土処分地を「憩いの森」に (森林ふれあい部門)	大分県立日田林工高等学校	中島 伽月 中村 隼人 長尾 颯大 平島 海夢	61
2	目指せ！伐木プロフェッショナル ～町の林業活性化に向けた取り組み～ (森林技術部門)	熊本県立矢部高等学校	増田 海仁 藤岡 佑誠 岸本 怜旺 橋 大治朗 和田 遥生	64
3	泉厄介者を地域の宝へ ～高校生ハンターの捕獲から加工への挑戦～ (森林保全部門)	熊本県立八代農業高等学校泉分校	赤星 翔 加世堂 孟 塩田 大 廣岡 風香	67
4	目指せ！林業ハンター ～地域と共に森を守る～ (森林保全部門)	熊本県立芦北高等学校	高嶋 奈々華 大崎 匠 高田 皇子朗 竹本 航 山本 璃斗	70
5	“もっと”木育！ ～『がんばろう！人吉・球磨！』 地域資源を活用した、人々の心に寄り添う復興支援活動の継続と展望～ (森林ふれあい部門)	熊本県立南稜高等学校	星原 幸生 平川 一樹 高田 翔真 福田 明純 蓑田 志織 平野 秀太郎 濱崎 煌	73

Ⅲ 特別発表（5大学連携）

○ 未利用森林資源を活用した木質のガス化技術	熊本県立大学 環境共生学部 研究員	中道 隆広	77
○ 林道網の設計に地形が与える影響	宮崎大学 農学部 森林緑地環境科学科 准教授	櫻井 倫	91
○ 南九州ブナ群落地で起こっている森林劣化	九州大学 農学研究院（宮崎演習林）助教	片山 歩美	104

Ⅳ 審査講評

一般・高等学校の部	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所長	塔村 真一郎	119
-----------	------------------------------------	--------	-----

Ⅴ 入選課題一覧

九州林政連絡協議会会長賞（一般の部）	6 課題	127
九州森林管理局長賞（高校生の部）	3 課題	